

## 文科系ユーザーの皆様へ

法文学部経済学科 前田 敬四郎

待望の二号機が2月26日に金沢大学に入り、4月から稼動することになりました。FACOM 230-35の購入に当っては、全学部の皆様が、こぞって御支援下されたことは、何よりもうれしい出来事でした。

この二号機の稼動を機会に、文科系の皆さんが、今後、FACOM 230-35を大いに利用されることを期待し度い。

理学部に一号機が導入されたのは、7年前だったと思いますが、理科系ユーザーは、その後爆発的に殖えました。それに比べ、文科系の計算機人口は、当初と殆んど変わっておりません。確かに、文科系の場合には、理科系における如く、電子計算機を使う必要性は、それ程多くありません。然し、データ整理や統計処理などで、使ってみれば意外と便利な点もあるのではないのでしょうか。

文科系の方で、電子計算機は利用してみたいが、機械アレルギーなので肌に合わないと感じておられる人や、使い方が御存知ないために厄介なものと思われ込んでおられる人が、あると思います。二号機の入った機会に、利用方法や手続を簡単に述べてみたいと思います。

先づ、FORTRANの講習会に出席しよう。初心者向きの講習会が年に三回開かれます。自動車運転のために、自動車学校に行つて講習を受けて来ると同様に、電子計算機の場合も講習を受けた方が早く上達します。

FORTRANの講習会は、3-4日の短い期間に集中的に行われますので、受講者にとって、時間的にはそれ程負担にならないと思います。FORTRANの講習会は、FORTRANの言葉でプログラムを書くことを教わるので、英文法や英作文の書きかたを習うようなものです。猫、FORTRANについては、小嶋さんのこの号の説明を見て下さい。

プログラムを書く。3-4日の講習会を済ませたら、自分でプログラムを作る練習をすることが大切です。偶には、講習会を終えただけで、直ちにプログラムを書いて、計算機を利用される人もいます。

プログラムが書けるようになって、電子計算機を利用する時の手続に話を移しましょう。

プログラムを計算機センター窓口を持って行きます。係りの人がプログラムを受取つて、プログラムに文法上の誤りがないかどうかを調べるために、そのプログラムを電子計算機に掛けます。これをデバッグと呼びます。誤りがあれば、誤り箇所が指摘されて印字されます。それから誤り箇所を訂正して貰うために、提出者の処にプログラムが送り返されます。

修正されたプログラムにデータを添えて、もう一度、計算機センターの窓口に提出します。計算機センターでは、計算を行つて、印字された結果を提出者の下に届けます。データを提出してから、2日位で、結果が皆さんの手下に届きます。

手続きは、このように簡単で、ユーザーはプログラムを作るだけでよいのです。従つて、機械アレルギーの人でも、案心して、電子計算機を利用することが出来ます。

最後に、FACOM 230-35は、皆さんの御利用を、お待ちしております。

## FACOM 230-35のソフトウェア ——— FORTRAN使用者を中心に ———

小嶋 秀夫

本学の利用者の大半の方の直接的関心事だと考えられるオペレーティング・システム(OS)の特徴と、それに関連したジョブ制御文の一部、および、FORTRANの概要を記してみた